

「情報システム論文の作成および査読のありかた研究会」報告

小久保幹紀[†] 田名部元成[‡]

[†]株式会社システムフロンティア [‡]横浜国立大学 経営学部

要旨

「情報システム論文の作成および査読のありかた研究会」は、情報システム実践で得られた知見が、学術論文という形の質の高い知的財産として蓄積され、再利用されるようになることを意図し、実用に供された情報システムの事例に関する体系化と抽象化を指向した学術論文の作成を促進することを目的として設置された。この目的のために、当研究会では、情報システム論文、とくに事例報告論文のあり方と査読のあり方を探究し、その結果を冊子にまとめるとともに、情報システム論文の作成に対して悩みや疑問、あるいは困難を抱えている執筆者からの相談に応じるという活動を行っている。これまでに、12回の定例研究会を開催し、研究と実践、論文の関係について議論するとともに、合計5名からの論文作成の相談に応じ、さらにワークショップを開催して研究成果の普及活動を行ってきた。今後は、前身の研究会が発行したガイドブックの改訂版を発行する予定である。本稿では、当研究会の活動内容を紹介するために、当研究会の設立趣旨と活動実績、および今後の展開について述べる。

1. はじめに

情報システム学会は、貴重な研究成果や実践事例を論文としてまとめ、発表・蓄積・共有する場を提供することを主要な活動の1つとして位置づけている。情報システム構築の事例報告論文を作成する意義は、情報システム学会誌でも指摘されているが[1]、学会誌に掲載される事例報告論文の数は多くない。その背景に、掲載論文の事例が少ないために執筆者が採録レベルを判断しがたいこと、また執筆者の論文作成に関する経験が十分でないために論文を書き上げるまでに至らないなどの現状がある。

「情報システム論文の作成および査読のありかた研究会」は、論文の投稿や執筆相談への期待の高まりを意識し、とくに産業界からの論文投稿の促進を念頭に、事例報告論文の作成・発表のあり方、査読のあり方を研究し、執筆者への支援の場を提供することを通じて、上記の問題に取り組むために設置された。当研究会は、これまでに設置された「産業界からの論文投稿を促進するための研究会」[2]と「情報システム論文の作成を支援する研究会」[3]の理念を継承し、単なる実態調査に終始しない積極的な活動を展開している。本稿では、設立から約1年半の間の活動実績と今後の活動について報告する。

2. 研究会の活動実績

当研究会の主要な活動には、(1)論文作成に関する定例研究会での議論や情報共有、(2)論文執筆者に対する個別相談、(3)ワークショップの開催、(4)ガイドブックの発行がある。

2.1. 定例研究会および個別相談の開催

月例の定例研究会では、情報システムの考え方や捉え方、探究活動としての研究と成果の提示様式としての論文との関係性、情報システム実践と研究デザインとの関係性などを整理するとともに、国際的な情報システム学術誌に掲載された論文のレビューを通じた、実践報告論文に求められる要件に関する議論を行ってきた。研究会では、毎回の定例研究会のアナウンス時に、専用のウェブサイト[4]を通じて、情報システム学会誌に投稿を検討している会員あるいは非会員の執筆相談者を事前に募っており、これまでに合計5名に対して個別相談を行った。これまでの定例研究会の主な活動内容、および個別相談を含めた参加者数を表1に示す。

表1 定例研究会の開催実績および参加者

	開催日	主な活動	参加者数 (うち相談者数)
第1回	2012/5/19 (土)	研究会の活動にあたって	11名 (1名)
第2回	2012/6/16 (土)	研究の企画	10名 (相談なし)
第3回	2012/7/19 (土)	情報システム論文とは	10名 (相談なし)
第4回	2012/9/15 (土)	情報システム論文の評価	12名 (相談なし)
第5回	2012/10/13 (土)	欧米のIS論文調査報告	4名 (1名)
第6回	2012/11/10 (土)	ワークショップの企画	6名 (相談なし)
第7回	2013/1/26 (土)	ワークショップの振り返り	7名 (1名)
第8回	2013/3/2 (土)	論文作成ガイドブックの企画	9名 (相談なし)
第9回	2013/6/8 (土)	論文作成ガイドブックの企画	10名 (2名)
第10回	2013/7/20 (土)	論文作成ガイドブックの企画	6名 (相談なし)
第11回	2013/9/21 (土)	ワークショップの企画	6名 (相談なし)
第12回	2013/10/19 (土)	論文作成ガイドブックの企画	4名 (相談なし)

2.2. ワークショップの開催

2012年度は「“良い”情報システム論文を書こう」をテーマに、業務の成果を研究発表大会やジャーナル論文に仕上げようとしている実務家・大学院生・研究者、あるいは学位論文(修士論文・博士論文)を仕上げようとしている大学院生を対象としたワークショップを開催した。そこでは、執筆の基本的な知識と留意点、質的評価論文のまとめ方の講義・講演を行い、その後、実際の研究発表大会論文を題材に、論文作成上の様々な気づきを得る演習を行った。演習では、参加者が査読者の立場で、情報システム論文としての構成に焦点を当て、表題の付け方、「新規性」・「有効性」または「有用性」・「信頼性」に関して題材を評価し、それをもとに参加者と研究会メンバーで討議を行い、「論文」化の作業を再考した。

2013年度は、同じテーマのもと、質的研究と量的研究の両者を組み合わせたミックス法研究について紹介し、研究デザインに対する理解を深めるためのワークショップを実施する予定である。

2.3. ガイドブックの発行

当研究会では、前身の「産業界からの論文投稿を促進するための研究会」が発行した「情報システム論文作成のためのガイドブック」[5]をもとに、当研究会における議論の成果を反映させた改訂版を2013年度末に発行する予定である。

3. まとめ

本稿では、「情報システム論文の作成および査読のありかた研究会」の活動内容を紹介するために、設立趣旨、活動実績、および今後の展開について述べた。より詳細な、研究会の活動報告及び成果物は、当研究会のウェブサイト[4]を参照されたい。

本稿をまとめるにあたり、多大なご意見をいただいた研究会主査の原潔氏、幹事の神沼靖子氏、メンバーである魚田勝臣氏、小幡孝一郎氏、川崎敏行氏、高木義和氏、松永賢次氏のご支援に深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 原潔, “情報システム構築の事例論文を書くことの意義”, 情報システム学会誌 Vol.6, No.2, 2011, pp.25-32.
- [2] 産業界からの論文投稿を促進するための研究会, <http://is.nuis.jp/~takagi/issj/index/>, 2013年10月現在.
- [3] 情報システム論文の作成を支援する研究会, <http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thn0510/issj-writing/>, 2013年10月現在.
- [4] 情報システム論文の作成および査読のありかた研究会, <http://issj.school-website.jp/writing/>, 2013年10月現在.
- [5] 情報システム学会, 情報システム論文作成のためのガイドブック, 2010.